

東部Ⅰ地区その他意見（自由記入）

（河辺小学校）

①校庭が広く、駐車場もある青梅市の学校は市民にとって魅力があり自慢です。それをなくすのはとても残念なことです。また、大きな地震や富士山の噴火などを考えると、学校は市民生活を守る役割も担えます。再編成で学校を減らすのは必要と思いますが、更に小学校中学校をまとめることにはデメリットを感じます。特に住宅街では広い土地は大切にしてほしいです。

③現在、各区市町村で学校再編成の課題が増えています。

青梅市青少年委員の会長として、東京都青少年委員会連合会の代表者会議に参加していますが、どこも少子化で学級数も減ってきていると聞いてます。

1学級の人数を35人から25人くらいまで減らして授業を行えるような基準を東京都も設けてもらえると、よりきめ細やかな教育ができると思っています。

この問題、難し過ぎてどう答えて良いのかわかりません。

④申し訳ございません。きちんとした意見が出なくてすみません。ただ、小中一貫校に関しては今のところ青梅では無理だと思います。あと、市長をはじめ青梅市では、どのような事をして人口増を考えているのか知りたいです。

⑥学校再編の必要性和課題を理解しました。将来の生徒数を予測した今回の長期案ですが、短期、中期の目標を立てつつ、進捗を見据えつつ進める事も大切だと思いました。また、統合後の学校跡地の活用についても、防災の観点含め検討をお願いします。

⑦東部Ⅰ地区は地域的に再編の影響が最も小さいと思われ恵まれた地区である。

他の地区のことになるが、再編案をまとめる際に、教育委員会や審議会委員の多くのメンバーが、各地区の最遠距離通学となる通学コースを通学時間帯・帰宅時間帯に実際に歩いてみることをお勧めする。机上の議論だけでは市民は納得しない。また、教員の視点（特に通勤）からの意見をより多く拾い上げるべきだと思う。教員に選ばれる地区・学校になる必要もある。

また、再編は遠い未来であるような気もするが、例えば存続が危ぶまれている友田小地区でも、新規住宅地の開発もあり、小学校の立地は住まい選びの大きな基準となる。学校再編は青梅に転居を考えている方へのブレーキにならないよう細心の配置のもと進めてほしい。

(霞台小学校)

②現在の各学校は、災害時の「避難所」になっており、その取扱いはどうなるのか？東部1地区は、再編により所謂「廃校」にはならないが、施設一体型の一貫教育に移行した場合、空いた校舎はどういう位置づけになるのか？(避難所が減るのか?)・・・青梅市の人口減少・高齢化・地域によっては過疎化の問題もあり、公共インフラの整備・維持等々、今回の学校施設の再編単独の施策・対策では済まなく、市政全般の対応策の検討が必要と思います。(既に取り組んでいるとは思いますが！)

③霞台小には、特別支援(みらいLabo)があります。みらいLaboの今後の対応が気になります。

⑤本件については、施設一体型・施設分離型のいずれの案にも、それぞれメリットとデメリットがあると考えます。

また、現状においても将来においても、学校だけが子どもたちの行き先や学びの場ではなくなってきており、学校外の多様な教育・支援サービスとの連携をより重視していく必要があると感じています。特に、不登校の児童生徒数については今後も増加すると考えており、その予測や見通しを踏まえた議論が重要だと思えます。

近年、小中一貫校が増えている背景には、一貫した教育の方が教育面でのメリットが大きいと考えられていることがあると受け止めています。

いずれの形を採るにしても、過度に小規模な集団より、ある程度の規模を持った集団の中で学ぶ方が、子どもたちにとって人間関係や社会性の面で有益であると考えており、方向性が定まっているのであれば、できるだけ早期に実行していただきたいと思えます。

当地区の協議会委員としては、霞台小学校、霞台中学校、泉中学校周辺は、看護学校や西峰学園を含む教育施設が集積するエリアであり、教育環境としての相乗効果を考えると、これらを分断せず、まとまりとして捉える方が有益ではないかと考えます。

この再編が、子どもたちの教育の質の向上にとどまらず、青梅市全体の将来的な発展につながることを期待しております。

⑥学校とは、防災拠点となる学校が減っても、防災拠点は残さないといけないと思えます。

(若草小学校)

①1. 学校再編全体像について

若草小学校を中心に考えると、なぜ、一番人数もクラスも多い若草小学校が分割されなければならないかを保護者および、関係者に上手にご説明ください。そこが不十分だと、反発を招きます。

2. 若草小学校の児童が、霞台小に通う際の問題点

若草小の生徒、特に低学年の生徒が、交通量の多い、青梅街道を横断しなければなりません。その安全対策が必要です。私たち新町1丁目自治会は、毎年東善寺の住職の協力を得て、「交通安全祈願祭」を鈴法寺跡公園で行っています。過去に、事故が続いたからだそうです。昔のように縁のおばさんを雇ったり、安協の人に毎日立ってもらうとか、対策をお願いします。

3. 若草学級や特別支援学級の処遇について

若草学級や河辺小学校の特別支援学級等の対応について、今回のプリントには書いてない気がします。若草学級は、その規模、ボリュームも大きいものです。インクルーシブ教育を前提に考えると単独校で残すことも難しいと思います。青梅市の特別支援教育の視点での説明も求めます。

まとめ

少子化と限られた予算を有効に使うことの再編案だと思います。基本的には賛成いたしますが、障害者教育、福祉に関わり、地元市民としての意見を書きました。少し、時間をかけて、地元住民や保護者、そして児童生徒の負担を軽減しながらの再編成を願います。特に、地元で虚無僧にも来てもらい、交通安全祈願祭を毎年行っていることも考慮に入れてください。

②若草小学校の地域、保護者等の立場からみると、学校が無くなってしまうことは寂しいことであり積極的に賛成する方は少ないと考えられる。

②若草小の児童数から見ると、(2025年369人で2059年285人)となり12クラスである。(12学級は望ましい学校規模である。)

②2059年で霞台小より若草小の方が児童数が多い。児童数の多い学校がなくなることは、不自然である。

②2059年で霞台小の多くの児童は、交通量の多い青梅街道を横断しなくてはならない。

②新町3丁目から霞台小まで25分とあるが、低学年は無理ではないか。特に夏期の季節は厳しい。

*以上のような声が、若草小の地域や保護者からあがることが予想される。小中一貫教育の良さを強調しているが、どんな良さなのか(学力が向上する、いじめや不登校が減った等)霞台小、泉中一貫校として研究し、言葉や文章も大切であるが、実際に見ていただき、成果等を若草小学区の保護者や地域の方に公開して理解・納得の上で学区編成を進めていただきたい。

*新町2.3丁目の地域は新町小に行く方が、はるかに近い児童もいる。新町小から別れて、若草小に通学することになった地域である。元に戻して欲しいという声もあると思う。このような声にも配慮していただきたい。

④学校統廃合を行う上で近隣市民の理解を得ながら進めることが重要だと思います。学校の規模を維持するための数値上の理由があることは事実ですが、不安を持たれている近隣住民の方と議論を重ね丁寧に説明や不安を聞き解消できるように進めて頂くようお願いいたします。

(霞台中学校)

- ①他の地区も極力施設一体型小中一貫を目指し、青梅市の意思を明確にしてほしい。
- ③東部Ⅰ地区は配置に恵まれており、どちらの案でも十分問題ないと思います。
- ③四小・一中卒業生としては、中央・北・西地区の再編イメージAは厳しいのではないかと気になります。
- 大変だと思いますが、調整をお願い致します。
- ④なかなかピン！とこないので意見を記入するのも悩みました。
- 子供が笑顔で楽しい学校生活を送れるよう、大人はがんばらないとダメですね。
- ⑤現段階では、編成後の運用方法についてのシュミレーションが足りない。例えば、今ある支援学級はどうするのか？など。
- ⑤学校を【箱】という考え方で捉えすぎていると感じます。小学生、中学生は成長過程において、一番大事な時期、情操教育の根幹と考えます。その場所が学校です。2059年以降の子ども達の未来をもう一度考えてみてください。

(泉中学校)

- ①泉中としては、今まで霞台小と若草小（8割程度）が中学校で一緒になっていた。それが、小学校から一緒になって入学することになる（小中一貫教育）。若草小のほとんどが霞台小入学となるため、生徒数は増えることになる。
- *小中9年間、同じメンバーで生活することになる。そのことにより良い面は沢山あると思うが、マイナス面が多くなってしまう場合もあるのではないかな。
- *「小中一貫教育の良さを生かす」と説明されているが、良さとは何なのか、良さを生かすためにどんな形態の小中一貫教育になるのか。例えば、霞台小・泉中で、校長は2校で1人なのか。学校教育目標は1つなのか。職員室は小中の職員が一室を使用するのか。「小中一貫型小学校・中学校」で、組織を独立したまま、連携させるという考え方ではないか。と考えるが。
- 学区編成の大きな柱は、小中一貫教育である。小中一貫教育のよさとか内容を保護者や地域が理解し、支援したくなるような学区編成にしていきたい。
- ②まだ、東部Ⅰ地区はよいが、青梅市全体を変えると一律に変えられない。
- 特に⑥⑦地区は、特例地区として東京都と一体となって学校作りを進めていかななくてはならない。
- さらに、人をどのように増やすかという町づくりにも関わってくるので、大規模マンションなどの開発事業など、すべてに関わってくるのでそこも踏まえて案を考えていくべき。
- 青梅市として学校数は減らしていくことは必要となる。教育の質を下げないように、減った教育資金を再投資することが大切である。
- 例)・⑥⑦地区でのバス運行の充実
- ・小中一貫教育の特色を生かす
 - ・一体型施設や分離型施設の工夫
 - ・第一には、人口減少を最小限に食い止める策を考えること、特に若い人を呼び込む工夫
 - ・青梅市独自のアイディアを出していく。(全国に青梅市しかやっていない施策を広く集める)今、しっかりと考えて行動していかななくては大きな後悔がまっている。

③一体型の小中一貫にすることで、施設の面だけでなく子どもたちへの教育という面で、どのようなメリットがあるのかよく分からない。先生方の仕事が増えて大変になるのでは？という心配もある。

③建て替えている間は、子どもたちはどのように生活するのか？

③河辺小（ことばと聞こえ）、若草小（情緒固定）など特別支援学級の設置はどのようになるのか？

③若草小がなくなるのは、仕方ないことだとは思いますが、若草小の元保護者としては少し残念。

④泉中には、特別支援（F組）があります。生徒数が増えたらの対応が気になります。

⑥すべての意見に共通して言えるのですが、再編成案は少子化と老朽化というある程度見通せる未来を基本に、未来も今と同じ学校教育、社会状況であると仮定した場合の意見です。

大まかな方向性は決めておく必要があると思いますが、詳細については時代背景をみながら、柔軟に対応できる、検討できる余地を残していただきたいと思います。

また、わかくさ学級、泉中F組などに通学する子は、通常級に通う子よりも環境の変化が苦手な子が多く、ご家庭も送迎や学習面精神面のサポートなど、負担は大きいと伺っております。

こういった子ども達やご家庭への配慮をお願いしたいです。当事者や現場の先生方のご意見も伺いながら、再編、移行にはゆっくりと取り組んでいただければ嬉しいです。

先日の説明会で「土地が空きますね」というご意見がありました。

ひとつの提案ですが、空いた場所に療育センターや不登校経験のある子を対象とした都立高校の設置を誘致することはできないでしょうか。

現在、支援が必要な児童生徒は増えているのに、施設が足りていないと伺っております。

発達障害などのための診察も数ヶ月待ち、固定級にもかなり前から希望しないと入れないなど、早い者勝ちのような状況です。兄弟児がいれば、一人の子にかかりきりになるわけにもいかず、あきらめてしまうご家庭も多いのではと思います。

また、立川に設置された立川緑高校も大変な人気があり、必要としている子ども達に行き渡らない状況であると感じています。

『近い』は最大のメリットです。

2040年はだいたい先だなと思いましたが、先だからこそ、誘致なども検討できると思います。市は大きな組織ですので、様々な観点から検討（保育園、学童、障がい福祉、交通政策等）することで、再編成が市民全体にとってメリットとなれば、最高です。子ども達の未来のためにより良いご検討をお願いしたいと思います。